QSK
にぬふぁぶし
No.265
子（ね）の方向の星

沖縄市地域活動支援センターおきなわ便り

新春合同もちつき会

支援センターおきなわでは、毎年地域との交流も兼ね児童センターとの合同「もちつき会」を開催しています。１月１９日、もちつき大会当日の朝はどんよりとした曇り空でしたが、開会式が始まる頃には強い日差しが降り注ぐほどの晴天に恵まれました。大正琴サークルさんの演奏や児童センターの子ども達によるダンス、大道芸人ごーちゃんさんの迫力あるパフォーマンスの後は、お待ちかねのもちつき体験。大人も子供も夢中になって杵を握っていました。つきたてのお餅に加え、毎年「美味しい」と好評の豚汁は何度もおかわりする人が続出。例年に比べ参加者は少なかったですが、おきなわの利用者や関係者の方々、児童センターの子供たちや地域の方々含め、１００名を超える参加となり、大盛況の内に幕を閉じました。

ガーデニング

毎月１回、支援センターおきなわのある沖縄市福祉文化プラザ周辺の園芸活動を行っています。沖縄市の花いっぱい運動にも年２回参加しており、先月も花の苗を頂いたばかりです。寒さに負けず、色とりどりの花が綺麗に咲いています。

きらりの集い in しまね　に参加してきました！

西平千穂

参加者がデザイン・作成した今大会のノベルティグッズ（限定品）

今回で７回目になる「きらりの集い」は精神に困難を抱えている人も支援者もまぜこぜになって分科会を楽しむ文化祭みたいなイベントです。

きれいな松江城の前の島根県民会館がおもな会場で、１月 13・14 日の日程で開催されました。オープニングは松江クラシックスオーケストラの演奏で始まり、「これが本物の演奏なんだーーー」と感動しました。わたしはピアのぶっちゃけトークと松江城のまわりの堀川めぐりと未来への手紙、３つの分科会に参加しました。

ピアのぶっちゃけトークでは、ピアスタッフやピアサポーターで頑張っている人、これから、そういう活動をしたい人が自分の現状を話したり、情報交換をしました。

堀川めぐりでは、こたつ舟にのって船頭さんのトークを楽しみながら、松江の景色を楽しみました。

未来への手紙は、自分に手紙を書いて用意されているポストに投函すると、気まぐれにそのお手紙が未来の自分に返ってくるというものです。いつ頃届くかお楽しみです。また、スタッフの方に観光も連れて行ってもらいました。きれいな和菓子を食べに行ったり、神社でおみくじを引いたりしました。きらりで前からのお友達も再会して、また新しいお友達もできました。このイベントではたくさんの＜きらり＞がありました。

上にあげた事柄も＜きらり＞だし、スタッフさん達のがんばっている様子も＜きらり＞でした。きらきらしてました。ぜんぶ、きらりでした。

来年は東京で開催されます。こちらがホームページです。
興味がある方はどうぞご覧ください。

https://www.go-to-tokyou2020

呉屋（ごや）　学（まなぶ） は農業資材を取り扱う会社の社長である。

呉屋さんが、就労支援事業所『てるしのワークセンター』に関わるようになって、もう3年ほどになる。

取引先の農家から、野菜の計量やパック詰めの仕事を持ってきたことがきっかけで施設に出入りするようになり、その後てるしのが野菜の栽培を始めると、これまたいろいろサポートをしてくれるようになった。

気がつけば、「呉屋さん、本業のほうは大丈夫かな」とみんなが心配になるくらい、しょっちゅう施設内で見かけるようになった。

てるしのワークセンター岸本（右）と、呉屋さん。

農業研修のための助成金を得て、昨年末、愛知県の農家へ視察に行った。呉屋さんの人脈を頼り、知多郡で微生物を活用した自然農法の技術に触れた。目に見えない微生物が土壌を耕し、作物を育てる。石ころだらけの土地で大根が育ち、農薬漬けになった畑がクリーンに再生していく。

呉屋さんがてるしのに伝えている“ブクブク”という技術でも、微生物を使っている。園芸室の前にある巨大なバケツがずっとブクブクと泡を立てている。ときどき様子を見て、“エサ”を足す。

人にしても微生物にしても、そういうエサみたいなものがなければ活動を続けることはできない。呉屋さんがてるしのと関わるうえで、そんなふうに見合うだけのメリットを得られているか怪しいものなのだが、ブクブクの話をしたりするときの呉屋さんはとても楽しそうなので、まぁいいかと思う。

先日1月16日、『農福連携』に関するシンポジウムがあって、県内では、てるしのが取組事例の発表を行なった。園芸担当のスタッフに続いて、呉屋さんが登壇した。発表では、普段の呉屋さんのイメージとは少し異なる、熱量を感じさせる真剣な語りが印象に残った。（増山）

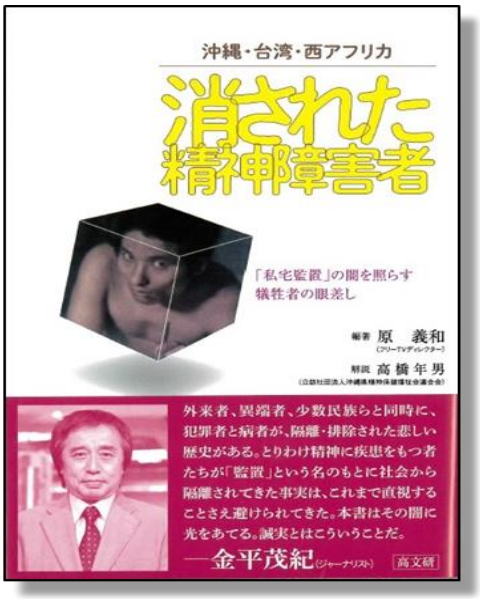
農福連携の話

【てるしのワークセンター×（株）アグリカルチャー沖縄・呉屋学】

書籍発売中

『消された精神障害者』

原義和：編著　高橋年男：解説
高文研（本体価格 1,500 円＋消費税）



私宅監置の闇照らす

消された精神障害者

海外事例交え 原さん出版

精神障がい者を自宅の一角などに閉じ込める「私宅監置」を題材にした書籍「消された精神障害者」（高文研）

沖縄・台湾・西アフリカ

編著者の原義和さん（左）と解説を担当した高橋年男さん

された精神障害者 『私宅監置』の闇を照らす犠牲者の眼差し」がこのほど高文研（東京）から出版された。日本復帰以前の写真や行政文書などを手掛かりに県内の当事者や遺族、関係者らをインタビュー。同様の制度があった台湾や、今も隔離・拘束が続く西アフリカにもスポットを当てた。

編著者は、那覇市に住むフリーテレビディレクターの原義和さん(49)。同書では、監置された当事者の顔や名前を葛藤しながら公表した。原さんは「批判も覚悟している。家族や地域の恥として存在をなかったことにされてきた彼らにこそ、歴史の証人として表舞台に立ち、社会の罪責を告発してほしい」と思いを込めた。

県精神保健福祉会連合会事務局長の高橋年男さん(65)が解説を担当。本島北部に全国で唯一現存が確認されている監置小屋の保存活動や、県内で初めて精神障害者家族会が発足した久米島の取り組みなどを紹介した。

四六判224ページ、税抜き1500円。問い合わせは高文研、電話03（3295）3415。

『消された精神障害者』発売記念トークイベント＆上映会

日時：２月 17 日（日）15:00～（上映会は約 30 分）
会場：ジュンク堂書店那覇店　B1F イベント会場

編著者でフリーTV ディレクターの原義和さん、ゲストにフリー・アナウンサーの宮城さつきさんを迎えて、トークイベント＆上映会を開催致します。　※参加無料

◎編　集　後　記◎

昨年末にハッとした。
「今年の目標立ててない」ということで、「この冬は風邪をひかない」という目標を急ごしらえ。いつも身体が冷えて、風邪をひくことは、分かっているのに冷やしっぱなしだったことを反省し、流行りにのらないよう奮闘中だ。（シマクロ）

編　集：公益社団法人
沖縄県精神保健福祉会連合会
会　長　　山田　圭吾
〒901-1104　南風原町字宮平 206－1
てるしのワークセンター内
電話 098-889-4011　FAX098-888-5655
E-mail　terushino@castle.ocn.ne.jp
発　行：九州障害者定期刊行物協会
〒812-0024　福岡市博多区綱場町 1-17
福岡パーキングビル４階
電話 092-753-9722　FAX092-753-9723
定　価：１０円（会費に含まれる）